

# 精神神経医学

## 1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
助教（うち病院籍）	5 人	(3 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	2 人	
研修医	2 人	
特任研究員	6 人	
大学院学生（うち他講座から）	4 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	1 人	
技術職員（教務職員を含む）	5 人	
その他（技術補佐員等）	5 人	
合計	33 人	

## 2 教員の異動状況

- 森 則夫（教 授）（平成 8 年 4 月 1 日 ～ 現職）  
中村和彦（准教授）（平成 14 年 7 月 1 日 ～ 現職）  
岩田泰秀（講 師）（平成 19 年 4 月 1 日 ～ 現職）  
高貝 就（講 師）（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 23 年 12 月末日退職）  
竹林淳和（助 教）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）  
和久田智靖（助 教）（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 現職）  
四戸敦子（助 教）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月末日退職）  
杉浦一平（助 教）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月末日退職）  
栗田大輔（助 教）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）  
大城由紀子（医 員）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 18 日退職）  
加藤康彦（医 員）（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月末日退職）  
青山美紗子（医 員）（平成 24 年 1 月 1 日 ～ 現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	18 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	78.49	













(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 森 則夫：日本脳科学会：理事長
- 森 則夫：日本精神科救急学会：理事
- 森 則夫：日本生物学的精神医学会：評議員
- 中村和彦：日本アルコール薬物医学会：評議員
- 中村和彦：日本児童青年精神医学会：評議員
- 中村和彦：日本生物学的精神医学会：評議員
- 中村和彦：日本脳科学会：評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	1件

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. Molecular Autism 2011. Editorial Board. Mori N. [If:不明]

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Biological Psychiatry (USA), 2回
2. American J Med Genetics B (USA), 2回
3. Psychiatry Research (USA), 2回
4. Psychiatry and Clinical Neurosciences (Japan), 3回

## 9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	4件
(3) 学内共同研究	3件

(1) 国際共同研究

1. 構造MRIを用いた自動診断システムの開発、IoP (Institute of Psychiatry、ロンドン大学、イギリス)、平成 21 年度～、国際共同研究

(2) 国内共同研究

子どものこころに関する研究

1. 理化学研究所（自閉症の臨床遺伝）
2. 大阪大学（自閉症の臨床遺伝）
3. 金沢大学（脳画像）
4. 中京大学（免学研究 他）

### (3) 学内共同研究

1. 分子イメージング先端研究センターヒトイメージング、尾内康臣教授との PET 研究
2. 解剖学講座、佐藤康二教授との自閉症モデル動物に関する研究
3. 光量子医学研究センター光環境医学研究分野、簗島伸生教授との自閉症のチップ解析研究

## 10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	1 件

1. 静岡大学と株式会社タイカとの eye track の共同研究を行っている。

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 自閉症の病態解明を PET 研究他で行った。

## 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 自閉症の早期診断法を開発した。

## 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 自閉症の PET 研究は独自のもので国際的に研究をリードしている。

## 15 新聞、雑誌等による報道

1. 「先端科学が迫る自閉症」、下野新聞、平成 23 年 6 月 10 日
2. 106 回日本小児精神神経学会、テーマ「発達障害とアタッチメント障害」「親子支援ネットワーク」シンポを企画 研究成果を実践に生かす試みを提示、教育医事新聞、平成 23 年 9 月 25 日
3. 第 29 回日本感覚統合学会研究大会、『「感覚調整障害」もっと理解して』、教育医事新聞、平成 23 年 9 月 25 日
4. 「児童精神科充実目指す」、中日新聞、平成 23 年 10 月 30 日
5. 「成人の 2.1%ADHD」、中日新聞、平成 23 年 11 月 18 日
6. 「発達障害の注意欠陥・多動性障害成人の 50 人に 1 人」、朝日新聞、平成 23 年 11 月 18 日
7. 「注意欠陥多動性障害 (ADHD) の成人期における潜在的な有病率 2.1%」、静岡新聞、平成 23 年 11 月 18 日
8. 「自閉症における脳内アセチルコリンエステラーゼ活性の低下」、分子精神医学 vol.11 No.13 2011
9. 「診療態勢づくりが急務」、中日新聞、平成 24 年 1 月 31 日